

# 2019年度 環境経営レポート

( 2019年度版 )

(2018年11月～2019年10月)

作成日

2020年 1月 10日



技 術  
信 頼  
挑 戦



株式会社 エドランド工業



認証・登録番号0001718

# 環境経営方針

株式会社 エドランド工業

## 環境経営方針

自然環境を常に意識し、継続的な汚染予防・改善に努め、『地球にやさしい物づくり、物にやさしい人づくり』をスローガンとして、全員参加のもと環境経営システムを継続的に運用し、環境保全・環境負荷低減に努めます。

## 環境保全への行動指針

1. 次の項目について、環境経営目標・経営計画を定め、継続的な改善と汚染の防止に努めます。
  - ①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)
    - ・購入電力、社用車燃料、灯油
  - ②水使用量の削減(水資源の保全)
    - ・地下水及び水道水
  - ③廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)
    - ・可燃ゴミ、産業廃棄物(汚泥、廃油)
  - ④グリーン購入(環境に配慮した物品等の購入)
  - ⑤製品における環境配慮の取組み〔生産及び出荷〕
    - ・化学物質を使用するにあたり数量、排出量を把握する
  - ⑥地域での環境活動への積極的参加
2. 環境関連法規制及び協定を遵守します。
3. 環境への取組を環境経営レポートとして取りまとめ公表します。

本方針は全従業員に周知するとともに、地球環境意識の徹底を図っていく。



認証・登録番号0001718



制定 2006年 9月18日

改訂 2019年 1月 1日

株式会社 エドランド工業  
代表取締役社長 久保 公司

## 1. 事業所の概要

### (1) 事業所名、代表社名及び所在地

事業所	株式会社 エドランド工業
代表者	代表取締役社長 久保 公司
所在地	岐阜県関市下有知 3846-1

### (2) 管理責任者指名及び担当者連絡先

管理責任者	製造部 部長	塚原 正和
担当者	本部 営業課長	山田 裕二
連絡先	TEL.	0575-22-0451(代)
	FAX	0575-24-1632
	e-mail	edems@edlund.co.jp

### (3) 事業内容及び認証・登録の範囲

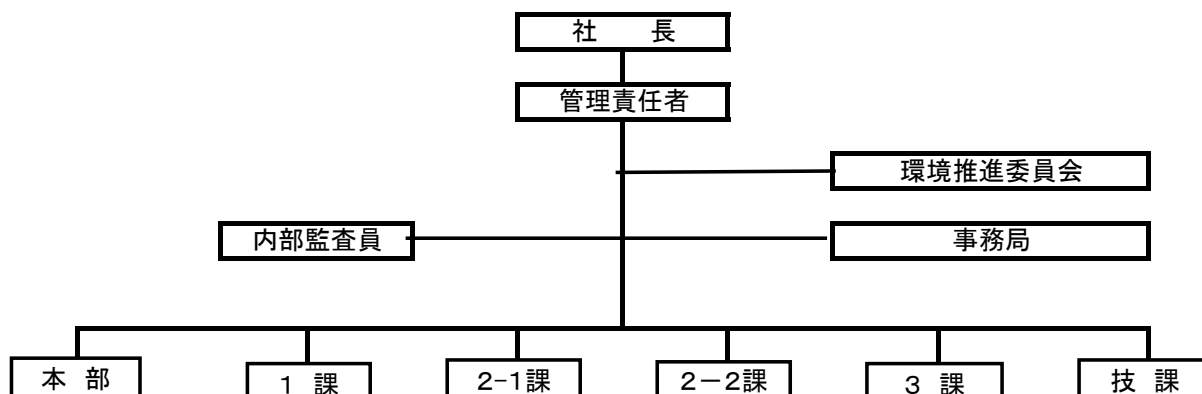
事業内容	当社は”刀匠の里”として全国的に知られております関市北西部に位置し、1919年(大正 8年)に創業した。 主として、刃物及び金属加工品の設計・製造・販売を行っている。
認証・登録の範囲	刃物、金属加工部品の設計・製造・販売

### (4) 事業の規模

項目	2016年	2017年	2018年	2019年
売上(千円)	362,000	418,600	455,800	463,000
従業員数	38人	37人	40人	40人
事業所床面積	敷地 2,800坪		建物 980坪	
事業年度	11月～翌年10月			

### (5) 環境経営組織図

2020年1月10日現在



※推進委員会メンバー

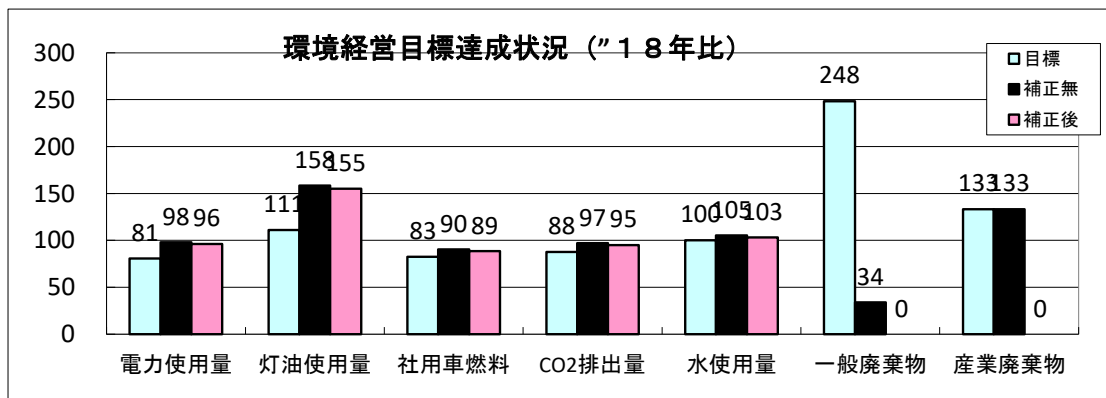
社長、管理責任者、各部門エコ委員、事務局で構成する

2. 環境負荷実績、環境経営目標及び実績

下段は'18年比(基準年度)を示す

中期計画		第3期	第2期	第3期	第4期				第5期		
項 目	単 位	18年	16年	17年	19年				20年	21年	
		実績	実績	実績	目標 補正無	実績	評価 補正無	評価(参考) 補正後	目標 補正無	目標 補正無	
		基準年度									
二 酸 化 炭 素 排 出 量 削 減	電力使用量	MWh	334.3	290.0	313.6	270.0	327.7	○	○	270.0	270.0
		%	100	87	94	81	98		96	81	81
	灯油使用量 (廃油含む)	リットル	720	2,900	1,640	800	1,140	×	×	800	800
		%	100	403	228	111	158		155	111	111
	社用車燃料	リットル	3,508	3,093	2,918	2,900	3,168	○	○	2,900	2,900
		%	100	88	83	83	90		89	83	83
内 訳	ガソリン	リットル	3,273	2,899	2,674	2,700	2,975	○	○	2700	2700
	軽油	リットル	235	227	194	200	193	○	○	200	180
	CO2排出量	t-CO2	171.1	154.2	162.1	150.0	165.9	△	○	149.0	149.0
	%	100	90	95	88	97		95	87	87	
省資源 の推進	水使用量	m3	898	23,253	905	900	946	○	○	890	880
		%	100	2589	101	100	105		103	99	98
廃棄物 の排出 抑制	一般廃棄物	kg	310	1,015	810	770	600	×	×	770	770
	可燃ゴミ	%	100	327	261	248	194			248	248
	産業廃棄物	kg	3,000	3,000	3,000	4,000	4,000	○	○	4,000	4,000
	研磨屑	%	100	100	100	133	133			133	133
化学物 質使用 量		—	適切管理 管理できた	適切管理 管理できた	適切管理 管理できた	—	適切管理 管理できた			適切管理	適切管理
グ リ 購 入 ン	紙類	kg	—	81	—	50				60	60
	(調達率)	%	—	65	—	50				50	60
	事務用品	点	—	27	—	30			売上比	30	30
	調達率	%	—	57	—	30			102%	30	35

- (注記) 1. 購入電力の実排出係数は、環境省「2015年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数」を用いた。  
 ○: 482kg-CO<sub>2</sub>/kWh(中部電力):各年度のトレンドが判るようこの値で算出した。  
 2. 本年度環境目標の達成状況('18年比)のグラフを下図に示す。  
 3. 評価記号 ○:達成(目標%以下) △:ほぼ達成(目標%に対し5%未満超過)  
 ×:未達成(目標%に対し5%以上超過)  
 4. 評価(参考)補正後の定義 18年比(%)=実績%/売上高補正值  
 5. 水使用量の第4期の目標は、水道管新設工事後の実績値をもとに設定した。  
 6. 第4期の目標率は、本年度より18年の実績値を基準とするのでそれをもとに算出した。



### 3. 環境経営活動の取組計画と活動結果の評価


◎:よくできた

○:できた

△:あまりできなかった

×:まったくできなかった

取組計画		達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出削減	電力使用量の削減		目標未達成(生産補正無、評価:△)
	①省エネ・省資源ルールの遵守	○	・基準年度に比べ6.6MWh削減出来たが、目標に対し7.7MWh増加し目標を達成できなかった。 ・18年度に比べ生産増、生産補正をかけると97%で目標達成 ・省エネ・省資源ルールの活動では限界があり、 ・⑦Peak電力の抑制及び⑧主要機器の使用方法の見直しを検討したが実施できず、次年度も電力量のモニタリング調査を行い削減に努めていきたい。
	②冷房温度28℃設定とクールビズ	○	
	③暖房温度20℃設定とウオームビズ	○	
	④不必要照明の消灯	○	
	⑤製造設備・機器の節電	○	
	⑥省エネ機器への切り替え(照明、エアコン他)	○	
	⑦Peak電力の抑制(契約電力147kW以下)	△	
⑧主要機器の電力量モニタリングによる使用方法の見直し	△		
灯油使用量の削減		目標未達成(生産補正無、評価:×)	
①省エネ・省資源ルールの遵守	×	・基準年度に比べ、420リットル増加し目標を達成できなかった。 ・省エネ・省資源の意識がマンネリ化し欠落していたと思われる。	
②ストーブの火力をできる限り落とす	○		
③不要ストーブの削減(指定台数以下)	○		
④職場の防寒対策とウオームビズ	×		
⑤扉、壁等の隙間風対策(防寒シート等の設置他)	○		
社用車燃料使用量の削減		目標達成(生産補正無、評価:○)	
①運転マナーの励行	○	・基準年度に比べ、340リットル削減し目標を達成できた。 ・前年度展示会出展、客先訪問等長距離運転の数が増え使用量が増加したのを考慮し目標値を変更した結果なので素直に削減出来たかは？。	
②社用車毎の運行状況の確認	○		
③集配方法の見直し(原則1人)	○		
水使用量の削減		目標達成(生産補正無、評価:○)	
①節水意識の励行	○	・基準年度に比べ、9kWh削減し目標を達成できた。	
②蛇口の点検、修理	○		
③洗浄水等の節水	○		
一般廃棄物の排出削減(可燃ゴミ)		目標達成(生産補正無、評価:○)	
①可燃ゴミ分別収集ルールの遵守	○	・基準年度に比べ、530kg削減でき目標を達成できた。 ・種類毎(紙、ビニール)の排出量を調査し、削減に努めた。 ・段ボールのリサイクルは、390kgと減少した。 新聞紙、雑誌のリサイクルは、530kgと増加した。	
②リサイクルの促進(段ボール他資源ゴミ)	○		
③私用品のゴミの持込み禁止	○		
④両面、裏面コピーの推進	○		
⑤シュレッダー紙屑の再利用(包装補助材等)	○		
⑥段ボール、新聞紙等のリサイクル	○		
産業廃棄物の排出削減(汚泥、廃油、研磨屑)		目標未達成(生産補正無、評価:×)	
①汚泥、廃油の排出量調査	○	・基準年度に比べ、1,000kg増加し目標を達成できなかった。 ・排出が1トン単位なため排出月のタイミングで増減してしまう。 ・汚泥11.3t排出も3年位に1度の排出なのでカウントなし	
②産廃業者引取量の確認	○		
③研磨屑の再利用(市組合に引取り)調査及び定期的な点検、清掃	○		
④金属屑の分別収集(材料別)	○		

取組計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
化学物質使用量	○	確認済 ・材料メーカーにミルシートの発行依頼 ・副資材 MSDS発行依頼、保管
①製造に必要な材料および加工液、研削液等の副資材の特定化学物質含有調査		
グリーン購入		目標達成 ・担当者調査未実施  今後も購入商品の見直し等を行い、グリーン調達比率を高めていきたい。
①環境ラベル適合製品の調査	—	
②事務用品等の購入実績の調査(前年度分)	—	
③調達リストの作成(紙類、事務用品他)	—	
④購入実績の把握と分析?	—	
社会貢献 (実施状況の写真は右の通り)		
①会社周辺の清掃作業(年3回程度)		
11月実施(参加人員 8名)	○	
5月実施(参加人員 8名)	○	
9月実施(参加人員 12名)	○	
次年度取り組み 設備機器の点検、老朽化箇所の調査を行い、環境負荷を過剰に与えてないかを確認し整備することで環境負荷の低減に努める。		

#### 4. 環境関連法規等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規は、次のとおりです。

適用される法規	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	遵守評価
水質汚濁防止法	貯油場、廃油置場、貯水池 油流出事故対応の記録	遵守
廃棄物処理法	一般廃棄物(可燃ゴミ他) 産業廃棄物(汚泥、廃油、不燃ゴミ) マニフェストの交付、保管	遵守
騒音・振動防止法	空気圧縮機、機械プレス 騒音測定結果の保管	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコン、空調機 フロン使用製品の簡易点検表の保管	遵守
顧客要求事項(ブラザー工業)	特定化学物質ブラザー基準値内保証書 出荷記録	遵守
遵守状況	環境関連法規等の遵守状況を評価した結果、環境関連法規への違反及び訴訟は、過去3年間ありませんでした。	

#### 5. 代表者による全体の評価と見直し

項目	代表者による見直し
	変更の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
環境経営方針	2019年 1月 1日に社名変更 株式会社エドランド工業
環境経営目標・活動計画	変更の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (1)環境経営目標(2019年度目標値の見直し及び基準年の変更)基準年2018年度 ①電力使用量の削減 270MWh(18年比: 81%)以下 ②灯油使用量の削減 800リットル('18年比: 111%)以下 ③社用車燃料使用量の削減 2,900リットル('18年比: 83%)以下 ④二酸化炭素排出量の削減 149t-CO2('18年比: 87%)以下 ⑤水使用量の削減 900m3('18年比: 100%)以下 ⑥一般廃棄物(可燃ゴミ)の排出削減 770kg('18年比: 248%)以下 ⑦産業廃棄物(研磨屑)の排出削減 4,000kg('18年比: 100%)以下 ⑦グリーン購入(事務用品他) 紙類:50%以上購入 事務用品:30%以上購入
その他指示事項	2018年度は、既存顧客の売上が減少する一方、展示会・インターネットによる新規顧客が増え売上が10%ほど増加した。多少の増加は、許容範囲だと思えます。2019年度もより一層の活動を期待します。



## 5. その他環境経営活動の紹介

### 5.1 環境意識の浸透

#### (1) 環境改善の事例発表会(1月に実施)

19年度活動結果について、全員参加のもと、各部門代表者が活動成果、反省点及び20年度活動目標(環境及び品質)を発表、質疑応答により意識向上を図った。



### 5.2 緊急時の対応テスト実施状況

手順は「緊急事態への対応手順書」による

#### ① 避難訓練(全員対象)

9月実施

地震による火災発生という想定のもと実施  
前年度の反省を生かしスムーズに行えた。

#### ② 油流出時の対応訓練(エコ委員及び関係者)

3月実施(参加人員11名)

廃油運搬中にドラム缶が転倒し油が流出を想定して実施。  
初期対応は良好だが、訓練の意識が迅速・的確に  
行動できていないところがあった。



#### ③ トラックへの荷積み作業訓練(本部関係者)

3月実施(参加人員7名)

荷崩れ防止のためのロープ掛けを実技訓練した。  
日頃ロープ掛けを行う機械が少なく忘れがちであり  
普段練習して忘れないようにすることとした。



### 5.3 製品、サービスに関する環境経営目標(改善例)

各部門の改善事例

環境経営目標	部門	活動結果の概要	評価
不要品の整理 刃付けアテの分別、置き場所(棚) の作成 ロッカーの設置	5S 小椋班	・不要・必要の判断が出来なく、予定通りに進まなかった。 ・刃付けアテを品番ごとに分別したが棚は、図面までしか出来なかった。 ・社員荷物置き用ロッカーを設置した。	△
不要品の整理 スペース確保 CAD室の整理 ホール盤周辺の整理	5S 石原班	・工具類の整理、不必要品の処分を行った。 ・機械搬入のために棚を集約し、ネームプレートを設置し、スペースの確保をした ・不必要書類の処分、空き箱等を処分した。 ・ホール盤周辺は、手が付けられなかった。	△
S棟東側周辺の整理整頓  目標値 刃付け機の完全修理	5S 朝田班	・現場の工具を全て集め、必要工具を洗い出した。 ・工具置き場(棚、ボード)の作製をし工具を割り当てた。 ・放電室内にあった古い書類を処分した。 ・缶切り部品が整理されていなかったため棚を作り整理した。	○
S棟2階の整理 P棟材料整理 商品部副資材の整理整頓	5S 野口班	・S棟2階の副資材の整理整頓をした ・P棟材料の整理は、できなかった。 ・現状動いていない製品を仕分け、資材倉庫2階に移動させた。 ・副資材の入出庫を管理出来るようにした。	△
・当初の計画では、18年度の活動を継続する予定だったが、仕事が忙しいという理由で前期は何一つと言ってよいほど活動出来ていなかったため、後期より強制的に5S活動を全員で行って下さい。と指示をしました。 その結果を上記に記載しています			

## 6. 2020年度環境経営計画

環境目標		目標値	担当	主な活動計画・取組
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	270MWh以下 18年比 81%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節電に努める。 ①空調機器の温度管理(設定温度)、 ②不必要照明の消灯、クールビズの推進 ③設備・機器の節電(空運転等の禁止) (2)省エネ機器への切替(照明他) (3)デマンド監視によるPeak電力の抑制 (4)製造設備・機器の適正管理 (主要設備・機器の電力量モニタリングと改善)
	灯油使用量の削減	800リットル以下 18年比 111%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節約に努める。 ①火力の調整、不必要なストーブは消す、他 ②ウオームビズの推進 (2)職場の防寒対策 ①隙間風対策(扉、作業場の囲い等)
	社用車燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油)	2,900リットル以下 18年比 83%以下	本部	(1)運転マナーの励行、燃料節約に努める。 ①アイドリングストップ、 ②急発進、急停車の禁止 (2)効率的な集配業務の実行 ①集配方法の見直し(原則1人で集配)
省資源	水使用量の削減 (地下水、上水)	890m <sup>3</sup> 以下 18年比 98%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節水に努める。 ①節水意識の励行 ②蛇口の点検、修理
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物の排出削減 (可燃ゴミ)	770kg以下 18年比 248%以下	全部門	(1)分別収集、可能な限り圧縮し減量化に努める。 (2)リサイクルの推進(ダンボール、新聞紙他)
	産業廃棄物の排出削減 (研磨屑)	4,000kg以下 18年比 100%以下	2課 3課 本部 全部門	(1)廃棄物(汚泥、木屑、廃油)排出量の調査 (2)研磨屑の有効活用(市組合に処分してもらう) (3)保管場所の点検、清掃(2ヶ月毎) (4)金属屑の分別収集と異物投棄の禁止
グリーン購入	紙類 (コピー用紙、トイレットペーパー)	50%購入	本部	(1)グリーン調達リスト(事務用品他)の見直し (2)調達リストによる購入と実績把握
	事務用品 (ファイル他)	30%以上購入		
社会貢献		設定無	管理責任者 事務局	会社周辺の清掃作業(年3回程度)
製品・サービスに関する環境目標		本年度は実績把握と改善	5SG	工場内の設備、機械、治工具等の整理、整頓を行い、空スペースを確保する
			作業標準書G	誰が見ても作業の仕方がわかるような書式を確立する
			メンテG	機械の修理、メンテナンスの技術継承ができるよう機械の仕組みの習得及び機械の修理を行えるようにする